

ソルフエー ステージ スクール

秋冬号

2016年3月15日発行

編集責任者 古澤裕治

豊島区目白4-23-10

Tel 03-3953-8517

ソルフエースクール

私の音楽の原点



大村明子先生

私は大村多喜子先生から声をかけて頂き二〇一一年一月から土曜日にソルフエーとピアノを担当しています。

以前、コーラス、楽曲分析等を教えて頂いたり、一時期毎週日曜日にお教室を拝借したりお世話になっておりましたので、詳しいことは解らないまま承諾しました。

驚いたことに先生方とお会いしたら、殆んど先生が色々な所で繋がっていてより親しみを感じました。

特に青木十良先生は私が三歳位かと思いますが我が家で年中ウアイオリン、ヴィオラ、チェロで合奏をして皆様とても楽しそうでした。青木先生は一番若くまだ結婚前でおとなしい方という印象でした。

父はクラシックギターの八重奏団で弾いたり、作曲をはじめ、ヴァイオリ

ンも母のピアノと合わせて（子供は早く寝かされ）、夜になると二人で楽しんでいました。レコードも沢山外国から取り寄せ、素晴らしい演奏をいつも聴いていました。

他にも楽器が色々ありました。子供達は身体が弱く姉弟の三人枕を並べて寝ていることが多く、その時は姉がマンドリン・弟がマンドラ、私がギターをお琴のように下において弾いて遊んでいました。

父の病気で東京から鎌倉に移り、終戦の翌年父が亡くなってからは、東京の世田谷に越しました。青木先生の所が近かったので年中転がり込んでいました。青木先生は、私が声楽を始めた時に古沢淑子先生を推薦して下さいました。何かあると相談できる頼もしい存在でした。

その後私は芸大音楽科に入って、古沢淑子先生に教えて頂くようになりました。そこで本当の芸術に出会わせて頂き、今まで想像していた所と違うフランス歌曲の真髄に触れることができました。それが今も私の心の中に深く

大人のための基礎音楽入門講座 II

音楽の基礎を学ぶための成人向け講座、三回目が十月から十二月にかけて行われました。前回の初級編から一歩

刻まれています。

また、フェリス女学院大学でソルフエーを教える機会があり、研究することを常に念頭において過ごしていたことが思い出されます。

私の中で音楽は、勉強するとか練習をするというより遊んでいるという感覚でした。受験の為に必死になって訓練するようなこともなく聴音等もしたことが無いのに殆んど聴き取れる状態だったので人に教えるのにどうなるか？と思いました。

ソルフエー・リトミック、合唱、合奏等きめ細かいスクール独自の教材が丁寧に作られていて素晴らしい上、一人一人を大切に教育は人として良く生きる土台になると思います。

多喜子先生、石田先生とご一緒でき、最後まで献身されて亡くなられた先生方の魂が私の心を暖かく見守って下さっています。

歳を感じる今日この頃ですが大好きな音楽と共に一日一日を歩める幸せに感謝！

踏み込んだ中級編。初級編では「拍の大切さ」を主に学びましたが、今回は「音程よく楽譜を読み、声を合わせる」ことを中心に、五名の受講者の方々と楽しく十回のレッスンを行いました。

ホールでは、身体ほぐしだけではなく脳トレも加わり、「出来な〜い！」と笑い声が絶えませんでした。表拍と裏拍の違い、休符を入れたリズムをカステネットと順番に叩くなど、前回よりだいぶ音楽的になりました。特筆すべきは、コダーイの教本を使い二声で声を重ねると倍音が聴こえ、より豊かな響きになることを実感出来たことです。

音楽は一人よりもアンサンブルで奏でたほうが喜びも倍増します。音楽を通して喜びを共有出来る友人を作り、また音楽を深く感じる事ができる柔らかい心のために、皆さんも参加してみませんか？

受講者から感想をお寄せいただきました。

傘寿の耳習い

大村新一郎
ますます面白くなってきた。

今年七十九歳と「傘寿の手習い」ですが、Iで味をしめて、IIにも参加しました。今度は生徒は五人（そのうち三人は美しい女性）、それに対して先生

はいつも二人と豪華。

ソルフェージュというから、音を聴いて「なんでしよう？」と当てるのかと思つたら、これも全く違った。まずは、ドレミファをちよつと変えたような練習の譜を少しずつ歌つてみる繰り返しでした。

名前だけは知っていたコダーイ（ゾルタン）という作曲家のものは、ドレミファをちよつと変えただけなのに、特徴的なメロディーになり（ハンガリーの？）この上なく美しい。びっくりドレミファという音階がとても美しいことを知りました。

（そういえば、「一番甘美で哀切なメロディー」と私が思っているベートーベンのバイオリン協奏曲第一楽章第二主題はレミファソラシのドレミ音階、「一番悲しい」椿姫のテーマは、なんとドシラソファミと、ただ音階をひっくり返しただけでした）。

また、ドミソというのが、支柱のよなものであることもわかりました。ちよつと変えたド↓ファが、夢とか、不安とか、ちよつと不安定になること、また、一つ上にあげたド↑ラは、これは有名なピアノニストさん（名前は例によつて失念）が新聞に書いておられたのですが、西洋音楽では「愛の告白」だとのこと。そういわれれば、「歌の翼

に」、「椿姫」の「乾杯の歌」、そして極め付き？はベートーベンのIch Liebe dichはみなこれですね。

とにかく、音階、音程の不思議さを知りました。そして、音痴な私ですが、音程はまず聴くよりも自分で歌つて（声を出して）認識するものだということがわかりました。

あつという間の十回の授業でした。

二回目の受講

門田厚子

今回、自分の中のテーマは「基本の音をしつかり取れるようになりたい」でした。希望どおり重点指導していただき、小さな進歩を感じています。終始、和やかで、笑いあり、笑いあり、楽しい中で実りある三ヶ月でした。



教室にて

音楽は楽しい！

内田由美

二回目も本当に楽しくあつという間に十回が終わつてしまいました。先生方がいろいろな教材を工夫して下さり、遊び（と言つていいかな？）の中で拍とリズムを、身体を使って声を出し相手を感ぜながら歌うことでアンサンブルを学びました。しかし初見はいまだに苦手ですし、それらが身に付いたかは、はなはだ疑問ですが（笑）。それでも学ぶことは楽しい！音楽は楽しい！です。

教室紹介

（金）十六時から十六時四十五分のお友達

- ・金井遥香ちゃん(小3)
- ・久島若李ちゃん(小3)
- ・田中光世ちゃん(小3)
- ・吉永衣織ちゃん(小2)



一番楽しいこと

田中光世

私がソルフェージュで学ぶ中で一番楽しいと思うことは合奏です。どうしてかという、みんなで楽器を演奏して音を合わせる事がとても楽しく思うからです。

みんなで合奏をする時まずだれがどの楽器を演奏するかを決めます。

次に、陽子先生のピアノに合わせて楽器を演奏します。

演奏している時、音が重なってきれいになります。私はこの時が一番楽しいです。

演奏したら楽器を交たいします。

これを、最初に決めた順番にもどるまで続けます。もとにもどつたら終りになります。

これからも、もっと合奏をして音を合わせてみたいです。

大好きなソルフェージュスクール

久島若李（わかも）

わたしはソルフェージュスクールが大好きです。通つて四年になります。

レッスンの時間は教本を読んだりダンノーゼルを読んだり、ソルフェージュエトをやつていて、とくにダンノーゼルでむずかしい音ぶを読んだり、二小節ずつみんなでじゅんばんに読む事

がわたしは大すぎです。

ホールではボールを使うレッスンは始まりませんでした。ボールでもリズムが身につきます。あんたがたどこさを歌いながらボールをついたりしています。むずかしいことは、リズムに合わせてボールをつくことです。今はだんだん合わせられるようになりました。できるようにになると、とても楽しいです。

陽子先生はやさしくて、お歌がじょうずで、みんな陽子先生が大すぎです。陽子先生はいつもえがおです。

これからもソルフェージュのレッスンをづけ、歌や音ふやリズムかんをもっと強くして、音楽をりかいていきたいです。音楽がある生活はともワクワクします。



ソルフェージュスクール

五十五周年記念演奏会

二〇一六年、当スクールは五十五周年を迎えます。五十五年間、「音楽を生涯の友とするためには、楽譜を自分で読む力をつける」という創設者の先生方の志を胸に日々努力してまいりました。これもひとえに、御父兄の皆様のご理解、後援会の皆様のご協力、そしてなるべく休まず元気に通ってくれる生徒の皆さま

の笑顔に支えられたものと感謝しております。私たち講師は、生徒たちの明るい歌声や一生懸命に演奏する姿に勇気づけられ、元気をもらっています。その関係は、「教える、教わる」ではなく「伝える、受け継ぐ」と表現した方が良いかもしれません。これからも生徒さん一人一人に寄り添い、創立時の志を胸に音楽の楽しさを伝えていきたいと思っております。

つきましては、来る二〇一七年一月二十九日(日)東京文化会館小ホールにて五十五周年記念演奏会を催します。当スクール卒業生である亀井由紀子氏(サンフランシスコシンフォニー在籍)をお迎えしてのプログラムを予定しております。

最後には在室生(小学三年生以上)と弦楽合奏での「サウンド・オブ・ミュージック」を演奏いたします。室内楽クラス以外の生徒さんは合唱での参加となります。

これを機に子供達の合唱団を、在室生だけでなく幅広く募集することになりました。お友達にもお声を掛けていただきたくお願いいたします。また御父兄の皆様の参加も募集しております。詳しいことは後日募集要項をお配りいたしますのでご協力のほどよろしくお願いたします。

東京文化会館小ホールは響きの良さにも定評があり、なかなか演奏するチャンスがありません。この機会に日本の素晴らしいホールで、一緒にお祝いしましょう!!

☆ クリスマスコンサート ☆

十二月二十日(日)午後、恒例のクリスマスコンサートが催されました。

プログラムの初めはまずソルフェージュスクールの室内合奏団によるヘンデル「コンチェルト・グロツソ作品6の7」の演奏で、コンサートの初めに相応しい端正な曲の雰囲気をよく伝えました。

二曲目のモーツァルトのピアノ三重奏曲K 502(水野紀子/ピアノ・妹尾美紀子/ヴァイオリン・吉村隆子/チェロ)は軽い内容とは言えない作曲家後期の作品を味わい深く聴かせてくれました。

後半の初めはシューマンのアダージョとアレグロ作品70(林徹也/ヴァイオリン・林さち子/ピアノ)。本来はホルンのために書かれた曲のヴァイオリンによる演奏でホルンの持つ味とは異なりますが、曲想の明暗を通してシューマンの情熱的な想いが表現されました。

次いで歌でシューマンの「献呈」とブラームスの「眠りの精」。(江原陽子/ソプラノ・込山今日子/ピアノ)。

シューマンでは気持ちの昂ぶりを、一方ブラームスの民謡を基にした曲は安らぎがよく表現されました。さらにヴァイオリン(妹尾美紀子)を加えてクリスマスメドレー。よく知られた「ジングルベル」、「荒野の果てに」「諸人こそりて」が演奏されました。

最後はスクールのコーラス・ヘルムユにより、スタンフォードの「ザブルーバード」、クリスマスソングの「クリスマスおめでとう」、また村井邦彦の「虹と雪のパラード」が歌われ前記クリスマスメドレーと合わせてクリスマスの季節の雰囲気を盛り上げました。

今回も大勢のお客様に来ていただきホールは満席でした。多くの皆様方と共に音楽に心を浸すひと時を過ごされたことを嬉しく思います。

へ 楽しくアンサンブル

小学三年生以上の器楽を学ぶ生徒を対象に、十二月二十三日に開かれました。

ヴァイオリン五人、ヴィオラ二人、ヴァイオリンとヴィオラ一人、チェロ二人、ピアノ四人、ヴァイオリンとピアノ二人の計十六名。

初見大会から名前を改め、初見によるアンサンブルの他、あらかじめ曲を決めて、各自練習をして、少し大きい

な曲に挑戦したグループもありました。重ねて参加していくと、譜読みもアンサンブルにも余裕が少しずつ出てきて、より楽しめる様になっているのが感じられます。 講師 妹尾美紀子

アンサンブルレッスンに参加して

田中智晴(ともせ)

ぼくは、アンサンブルに三回参加しました。前のアンサンブルとくらべてバイオリンは、最初から楽譜どおり弾けて、ピアノでも楽譜どおり弾けたのでよかったです。ピアノでは、友達と弾けたのでよかったです。

最後に全員で合奏したときに、ぼくは、バイオリンをやりました。その演奏は、とてもむずかしかったので、次のアンサンブルは、もっと練習してさいこの合奏がきちんと、できるぐらいがんばりたいと思います。合奏はむずかしかったけど、みんな音楽を合わせることで楽しかったです。春のミュージックキャンプも、また参加したいです。

有意義な時間

山根果也

私は今回楽しくアンサンブルに久しぶりに参加しました。私は友達と参加したのですが、普段のレッスンとは違い初見と一緒にアンサンブルしたり、

いつもと違う先生のレッスンを受けたりできて面白かったです。また、参加者全員でお話ししながら昼ご飯を食べたのもすごく楽しかったです。レッスンもレッスン以外にもとても有意義な時間で、あつという間に終わってしまいました。アンサンブルの楽しさと難しさが分かったので、また参加して勉強したいなと思います。

日ごろのレッスンの成果を実感

水田壮彦

ソルフェージュスクールでお世話になり始めて以来、初見大会の時から毎回参加させていただいています。先生方の指導の下、各教室に分かれてのレッスン、そしてホールでの弦楽器参加者が集まったの弦楽アンサンブルなどを楽しませていただきました。

私は昨年からヴァイオリンと並行して取り組み始めたヴィオラでの参加。普段、個人レッスンでお世話になっている林徹也先生がよくおっしゃっている「他人の演奏を聴きながら、拍を数える」ということを意識しながらレッスンに臨ませていただきました。譜読みすらままならなかった私がアルト譜表の初見の楽譜を以前とは比べ物にならないほどスムーズに読めるようになり、日ごろのソルフェージュのレッスンの成果も実感することができました。

夏季合宿参加者募集中!

〈日程〉八月十八日(木)～

八月二十一日(日)

〈会場〉ペンションスケッチブック
(山梨県北杜市高根町清里)

—— 訂正とお詫び ——

以前の新聞に掲載しました亀井先生のプロフィールに誤りがありました。

【誤】ロサンジェルズ交響楽団

【正】サンフランシスコシンフォニー

訂正してお詫び申し上げます。

春のコンサートのお知らせ

四月二十九日(昭和の日)二時より、スクールのホールにて春のコンサートを開催します。

ゲスト出演者にホルンの水野信行氏を迎えてモーツァルトのホルン五重奏曲を初め、クラリネット五重奏曲、ピアノ協奏曲十九番(二台のピアノ)、オペラ「フィガロの結婚」からソプラノ

《新任講師のご紹介》

二月から新しくピアノ・ソルフェージュ担当の先生が着任されました。

加藤恵理(かとう・えり)先生



〈プロフィール〉

幼い頃よりソルフェージュスクールにて音楽の基礎を学ぶ。ピアノを林紀子、桜井房江に師事。玉川大学文学部卒業後子どもにピアノを教える傍らコーラス、リコーダー等の活動が続ける。現在音楽グループタクトFメンバー。平成三年～八年ソルフェージュスクール講師。木曜日にレッスンしていただきます。

のアリアなど、全てモーツァルの曲によるプログラムです。

出演は他に古沢裕治(Cl)、糸井みちよ・妹尾美紀子(Vn)、川崎公子・林徹也(Va)、土屋りえ・吉村隆子(Vc)、込山今日子・林さち子(Pf)、江原陽子(Sop)、ソルフェージュスクール合奏団。

予約お申し込みの上でのご来聴をお願い致します。